



望未会グループ 夢 通信

医療・保健・福祉・教育グループ

2025年

1 月号

VOL.95

明けましておめでとうございます。今年も益々大変な状況となりますが、各施設の職員、スタッフ、関わる誰一人も欠けることなく、皆で同じ目標を共有し、前を向いて、共に手を携えて乗り切っていきたいと思えます。今年もよろしくお祈りします。 統括 松澤 信広

状況 今年も例年にも増して厳しく

今年も介護施設を取り巻く状況、その厳しさは例年にも増して増大し、経営者泣かせの現実に取り囲まれ、それは少なからずそのような環境に身を置く職員たちにも影響の及ぶこともあろうかと思えますが、共に手を携えて乗り切っていきたいと思えます。試練や苦しみは嫌だからと、真っ先に人が取る行動には「その場から逃げる」が挙げられますが、これを幾度となく繰り返しても成長はないばかりか、成長や成熟とは無縁な人生を刈り取るだけになります。



人生 成長した人生とは

成長や成熟した人生を生きる人たちは、その生活をどんなに喜び、有難いと満足していることでしょうか。ところでこの人たちの人生には、困難・苦難・試練といったものは存在しないのでしょうか。そうしたものと無縁なのでしょう。無縁どころか、そうした現実から逃げ出さず、それを受け容れ、それらに打ち勝ったから今の有難い生活が与えられると知っているのです。「有難い」とは「苦難や困難が有る」と書くように、それらと戦い、勝利した者にだけ与えられるご褒美であることを、その人たちは知っているからこそ、そこに立ち止まり悪戦苦闘しながら、今ある生活を守り抜いている（現実もあることを知るべき）のです。

職場 チームの一員

職場では個人プレーではなく、チームの一員としての各々のプレーが要求されます。「なんで俺はXXでないんだ」と他者のポジションを妬んでみたり、欲してみたりして、自分のポジションを疎かにして本来の働きが鈍って話になりません。人間にとって差別などないように、仕事にも貴賤はない。頭が大事だ、心が大事だと言ってはみたものの、最終的には人間を根底から支えている足が重要であり、さらに言えば足の裏が一番重要な働きをしているように、仕事も見えない所でコツコツと地味な仕事に明け暮れる人がいればこそ、その他の部分が光ります。陽の当たる場所でスポットライトを浴びていると一見華やかに見えますが、文句一つ言わずに黙々と働く職員の仕事も重要であり、はるかに尊い場合もあることを忘れないようにしたいものです。

介護 2種類の介護

介護には2種類の介護があります。一つは「あげる介護」であり、もう一つは「もらう介護」です。「あげる介護」は恩着せがましい介護であり、「こんなにしてあげたのにちっとも分かってくれない」と最後は「押しつけがましい介護」に陥り、「喜ばれない介護」に終わります。反対に「もらう介護」は感謝される介護であり、私のような不十分な者にも関わらず「させてもらうことが出来て感謝」です。介護して喜ばれ、させてもらって感謝が倍増するのは、「やらねば」という義務から解放されて、自発的な愛から発出した心に届く介護がなされているという現実があるからです。

人生のターニングポイント 成功へと至る道



こころのギアを入れ替える

竹村健一著「自分の意見が言える人になれ」には現在のソフトバンク社長の孫正義さんについて次のように書かれている。

彼がしががない会社を立ち上げた頃の話である。おんぼろビルの一隅にある部屋で、孫さんはリンゴの空き箱を台にして、若手の社員二人を前に、自信たっぷりに次のように語った。

「五年以内にソフトバンクは必ず日本のソフトウェア業界のリーダーになる！」

彼だけが見ていたところの中の幻、目標を語ったのである。

これを聞かされた社員二人は「この社長、ホンマ、アホかいな」と一笑し、翌日揃って会社を辞めてしまったそうである。

体質を変えない限り、何も変わらない

人は同じ環境で同じものを見ていて、同じように感じていると思込んでしまうが必ずしもそうとは限らない。一方の人は、即座に「無理、無理、無理に決まっている。出来っこないよ」と感じている。そして同時にしていることは「出来ない理由」を考え始めているのである。

もう一方の人は、「すごいな～、あの人に出来るのなら、俺だって出来ないはずがあろうか。」と感じている。そして、心に思い描いたものは必ず出来る、と「出来る理由」を考え始めるものである。

この両者には、片方は上り電車に乗り、もう片方は下り電車に乗ってしまう真逆の結論に向けて走り出す程の違いがあるということだ。

身体に染み付いたこの違いは、そう簡単には修正出来ない。何かを強く「信じ込んでいる人」と「そうでない人」との違いというものは、一体どこから現れ出るものなのだろうか。

出来ない理由を見つめ、出来ない理由を握りしめている人は、その信仰に縛られ、拘束され、生活信条のギアをバックに入れて、常に否定的に、常に懐疑的に、常に後ろ向きな人生を生きることになるのだ。

聖書は私たちに「正当な支払いを惜しんでも、かえって乏しくなる者がある」との不思議な言葉を残している。

出来る理由を見つめ、出来る理由を握りしめている人は、そうした信念に縛られ、拘束され、生活信条のギアを一速、二速と入れ替え、常に肯定的に、常に積極的に、常に前向きな人生を生きることになるのだ。

そこで聖書には「施し散らしてもなお富む人がある」との不思議な言葉がかけられている。同じようでありながら、両者には天と地ほどの違いが生まれるのだ。ますます貧しくなる人と、ますます豊かになる人とに分かれる。

聖書はハッキリと私たちにその秘訣を明らかにし、多くの人たちが賢い人生の選択をするように願い、導いておられることだけは明白な事実であることを伝えておこう。



望未会グループ

医療・保健・福祉・教育グループ

〒366-0004 埼玉県深谷市上手計317番地1

048-577-7913

<https://nozomikai.jp>

